

2014 年度 「学会論文賞」 授賞の報告

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るため、2009 年に「学会論文賞」が設立されました。

この賞は、医療経済学会雑誌である「医療経済研究」に掲載された研究論文の中から与えられるものであり、賞状のほか副賞として賞金(提供:医療経済研究機構)が贈られます。

2014 年度は、以下の論文が受賞され、2015 年 9 月 5 日開催された医療経済学会 総会にて、医療経済学会 会長 遠藤 久夫 先生より表彰状が授与されました。また、医療経済研究機構 西村周三所長より副賞が贈呈されました。

岸田 研作 氏 (岡山大学大学院 社会文化科学研究科 教授)

「介護が就業、収入、余暇時間に与える影響

—介護の内生的性および種類を考慮した分析—

授賞理由：

本研究は、介護が就労確率・労働時間・収入に与える効果について、男女別による違いを様々な観点から丁寧に検証を行った原著論文である。分析手法について、本研究が用いた操作変数の有効性に疑問が残るとの意見もあったが、男性による家族介護が増加傾向にある現状に鑑み、政策的にも重要な研究であり、高く評価できると判断されたことから、ここに学会論文賞を贈るものである。

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るべく 2009 年に学会論文賞が設立されました。また 2012 年からは、特に若手研究者の研究奨励を図るべく、新進気鋭の若手による論文を受賞対象として選ぶようにしています。このたびの選考でも、論文の質はもとより、若手研究者の意欲的な取り組みが高く評価されています。次年度以降も若手諸氏の意欲的投稿を期待します。

『医療経済研究』編集委員長 橋本 英樹